
離れていても..

みーしゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

離れていても・・・

【Nコード】

N4789R

【作者名】

みーしゃん

【あらすじ】

これわコナンの頃の話

ある日蘭わ夜1人になってアイツに電話をした・・・
新蘭です！！

離れていても（前書き）

よろしくお願いします！

離れていても

この日はコナンは博士の家に泊まっていた

そして小五郎も麻雀仲間と急きょ遊びに行っていた

「はあ．．．１人か。．．アイツ今なにしてるんかな」
蘭は１人で家にいた

アイツとは工藤新一のことだ

「今頃向こうで女でも作ってるのかな」

電話でるかな

蘭は新一に電話をした

その頃コナンは少年探偵団と博士の新作推理ゲームをしていた

「コナンくん、すごい!!」

「本当君はなんでも分かりますね」

「普通のゲームはヘタクソなんだけどな！」

「うるせー！」

「まったくコイツら・・・」

「江戸川くん携帯鳴ってるわよ」

「あ、灰原とつてくれ」

「誰からだ？」

「もう鳴ってないわ、あと携帯は本当のあなたのほうよ」

「えっ？じゃあアイツか」

「工藤新一の番号を知っているのは博士と蘭だけだ」

「コナンくん、誰から？」

「まさか、コナンくん！何か僕たちに隠してるんですか！？」

「コナン！誰からだよ！」

「なんでもねーよ！ちよつと電話してくる」

「コナンは外にでた」

着信

「留守番電話サービスに接続し．．」

ピッ

「．．はあ、新一出なかったな、事件で忙しいのかな．．」

．．まさか女がいるから？

「そりゃ、出来るわよね．．」

新一は優しいしカッコイイ、それに全国で事件解決しているんだから可愛い女の子とは絶対出会うはず

わたしは昔からただの幼なじみにしかすぎない存在なんだよね．．

「ばーか．．」

新一．．早く帰ってきてよ

すると

ブーブー

蘭の携帯がなった

「え、新一？」

新一からだ

蘭わ電話にでた

電話

＊＊会話＊＊

「はい、」

「おお蘭、久しぶり。着信入ってたから・なんかあったのか？」

「そうだよね・なんかなくちゃ・」

「蘭？」

「ううん、なんでもない！」

「で、なんかあったのか？」

「なんでもないけど・」

「？」

「１人で寂しくて・」

「え・おまえ今１人なのか？」

あれ、おっちゃんは？

「うん、コナンくんは博士の家に泊まっていて、お父さんは今麻雀仲間と一緒に・多分泊まりかも」

「じゃあ今日1人なのか」

「うん、そういうことになるわね」

「そっか」

蘭1人になっちゃうのか

「ねえ・新一？」

「あん？」

「あのさ、そっちで・」

「・」

沈黙が続いた

「・なんだよ」

「・わたしには聞く権利ないかもしれないけど、
・聞いていい？」

「ああ、なに？」

蘭？

「そっちで・その、好きなひと出来た？」

電話 2

「は？」

コイツは何を言い出すんだ

「いや別に深い意味は無いけどね！その．．出来たかなあって思っただけでね、わたしはいつでも新一の味方だから．．だからできたら紹介してほしいな．．て．．」

嘘．．本当は紹介してほしくない

味方になれない

けど新一には幸せになってほしい

例えわたしのもとに帰って来なくても、幸せになってくれれば．．

「いきなり何言い出すと思ったら、バカだな蘭」

「！！！！バカってなにがよ！？」

すると

「こっちにはいねーよ、おまえよりいいおんなは」

「え？」

「だからくだらねーことで悩んでんじゃねーよ」

「新一．．」

「だから、おまえも好きなやつつくんなよ？」

「コイツ俺がこんなこと言う意味わかったのか？」

「新一もバカなこと考えてるんじゃないわよw」

「うるせーw」

「いや．分かってねーな．．ハハ（苦笑」

「あはは、ねえ新一？」

「なんだ今度は？」

「待つてるからね、ずっと、だから早く帰ってきてね！」

「蘭．．なるべく早く帰る、帰ったら1番におまえのもとに行くから」

「うん．．ありがとう
じゃあおやすみ！」

「ああ、腹だして寝るなよ」

「ね、寝ないわよ！ばか！・じゃあ切るね！バイバイ！」

蘭は電話を切った

君が心配で．．

「まったくアイツは、さてと」

「帰らないの？彼女のもとに、高校生探偵工藤新一くん？」

後ろから灰原が言ってきた

「おまえいたのかよ、．．あのさアイツらには」

「ええ言つとくわ、あなたたちより彼女のほうが大切ってね」

「にやろう．．」

「嘘よ、まあなんとか言っておくから早く行きなさいよ」

「わりいな灰原、後はよろしくな！」

コナンは探偵事務所に帰って行った

「はあ、しっかりしなさいよ工藤くん」

その後、コナンが帰ったことを知った少年探偵団たちはくだらないこと想像しを言い合っていたが、哀と博士がなんとか否定してごまかした

帰ったが．．

「もう寝ようかな」

新一と電話出来て嬉しかった

ねえ新一、わたし待っててもいいんだよね？

ピンポン

チャイムが鳴った

「こんな遅い時間に誰だろ．．」

カチャ

「コ・コナンくん！！」

「ただいま蘭ねーちゃん！」

「えっ？今日博士んちで泊まりじゃ．．」

「うん、ま．まあいろいろあつてね！」

おまえが心配だったから

「そうなんだ、あつ今日ね新一から電話あつたんだ！」

蘭は嬉しそうに話してきた

「そ、そーなんだ！良かったね」

コイツ嬉しそうだな

「うん！コナンくんわたしもう寝るね！おやすみ」

「あのさあ！」

「ん？どうしたの？」

「もし新一にいちやんが帰ってきたらどうする？」

「え？．．んーと一発殴る！」

「え？」

まぢ？

「クスクス、嘘よ、まずはおかえりって言っわ。
次に．．」

「次に？」

「秘密！じゃあねコナンくん」

「？うん、おやすみ蘭ねーちゃん．．」

蘭は自分の部屋に入った

っておい！次はなんだあ？

．．あーわかんねえ！

コナンは夜ずっと考えていて眠れなかった

END

帰ったが・・・（後書き）

少し字の変更をしました！！、ω、

あと話にでてくる「次は・・・」についてわぐ想像にお任せします！！

でわ！！

みーしゃん

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4789r/>

離れていても..

2011年3月13日17時15分発行